

本校の研究

1 研究主題

確かな学力をもち、いきいきと自分を表現できる子どもの育成
～自分の考えをもち、ともに学び合い、高め合うことができる子どもをめざして～

2 研究主題設定の背景

(1) 地域・児童の実態から

本校の児童は、明るく素直で与えられた課題に対してまじめに取り組むことができるが、保育所から少数の固定された集団で生活しているため、人間関係を広げようとする意欲や能力が不足している。また、自分や友だちのよさや可能性を見出し、互いを認めにくい傾向が見られる。そのため、主体的に考えたり行動したりすることができにくい面が見られる。

また、固定された小集団であるがために、特に教科の学習においては、考えを広げたり、深めたりすることが困難で、教師に頼りがちで指示待ちといった状態の改善は十分であると言えない。

その上、短い言葉で友達同士会話が成立しているので、発展的な会話能力が不足していたり、自分の意思を相手に堂々と伝えることが苦手だったりする児童も見受けられる。

(2) 教育の今日的課題から

「確かな学力」は「生きる力」を育てるうえで必要不可欠なもので、それを育てていくためには基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることが大切である。またその知識・技能を実際に活用していく力、特にコミュニケーション能力は重要である。さらにこの力をベースにして、課題を探求する活動を通して、自ら学び、自ら考える力を高めることが必要である。

また、言葉は「確かな学力」を形成するための基盤であり、コミュニケーション能力を育成していく上でも国語力の向上は大切にしていかなければならない。

(3) 教師の願いから

本校の教師の願いは次のようなものである。

- 相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりする中で、お互いのよさを認め合いながら集団として伸びてほしい。
- 学習を支える基礎・基本の力としての書く力（漢字、文章構成力、事柄を整理しながらノートに書く）や、計算力（四則計算）を確実に身につけさせたい。
- 確かな学力の核となる基礎・基本の力として、表現力（自分なりに感じたことを自分の言葉で表現する力、人前で堂々と発表できる力）を身につけさせたい。

(4) 学校教育目標達成の課題から

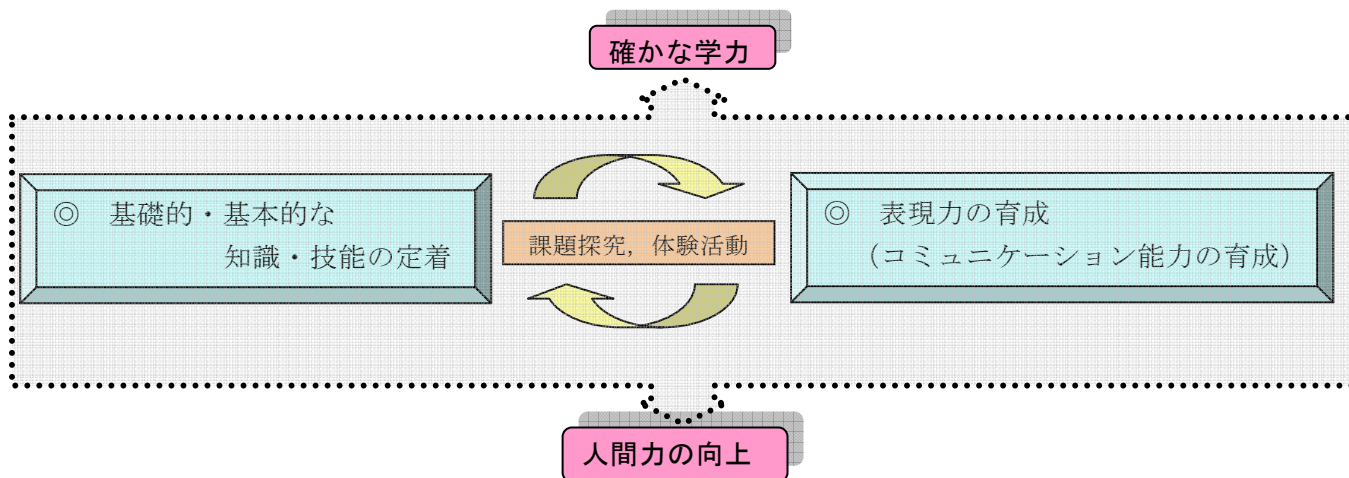
本校は、「調和のとれた豊かな人間性と知力・体力・道徳性を備えた児童の育成」を教育目標としている。この教育目標具現化のために「地域学校づくり」、「確かな学力の向上」、「たくましく生きていく力の育成」を本年度の学校経営の重点にしている。

そのなかでも、「確かな学力」の向上のために基礎・基本の確実な定着を図り、それを活用していく実践的な表現力を育成していく。特に、学習や生活場面での課題に対して、主体的に考えながら最後まで前向きに取り組める児童の育成をめざしている。そして、「心やさしくたくましい子」の育成のために、学習の中で友だちや自分の考えをさらに高めあうよう指導の手だてを考え、子どもの側に立った分かる授業の実践をめざしている。

(5) 研究主題について

以上、地域・児童の実態や教育的課題 (1)～(4)のことを基にして、本校では、「確かな学力を

もち、いきいきと自分を表現できる子どもの育成」という研究主題を設定した。また、サブテーマを「自分の考えをもち、ともに学び合い、高め合うことができる子どもをめざして」とし、共に学び合いながら、表現力を育成するとともに、実生活に根ざした豊かな人間性（人間力）の向上につなげたいと考えた。



3 実践の手立て

(1) 研究仮説

【仮説 1】

少人数のよさを生かし、個に応じた指導と、適切な評価の一体化を図ることで、自己学習力が身に付くとともに基礎・基本の確実な定着を図ることができる。

【仮説 2】

基礎的・基本的な知識・技能を活用して、コミュニケーション能力を育成していくなかで、確かな学力の核となる表現力や他の意見を尊重する豊かな人間性を育成できる。

(2) 仮説検証のために

① 研究内容

- ・教育活動全体の中での国語力、「話す力」「聞く力」「コミュニケーション能力」の育成
- ・児童の関心・意欲、基礎学力を高める評価テストや発展学習の内容充実
- ・教員の資質向上のための研修（情報教育，人権・同和教育，生徒指導等）

② 研究方法

◎ 一人一人の分かり方，表現を大切にした指導を行うために

ア 授業研究の実施

- 提案授業では、今年度の研究内容の中心課題を踏まえた実践を行う。また、公開授業を互いが参観し、指導技術の向上に努める。
- 特に18年度は算数科，国語科，仲間作り活動を中心に、児童一人一人が自分の考えを持ち、互いに高め合える支援の在り方について研究することとする。

イ 表現力部会での研修

- 表現力育成のために指導の改善と工夫を行う。
- 話す・聞くことを中心に据えた学年段階ごとの指導計画作成

- 適切な評価の実施と指導の改善の研究

ウ 基礎学力部会での研修

- 月末テストの作成を通しての基礎・基本のとらえ方の研究
- 補充，発展学習の在り方の研究
- 児童の学ぶ意欲を高める計算大会，漢字検定の在り方
- ノートを通しての児童の分かり方，教師の指導法の研究

◎ 教員の資質向上のために

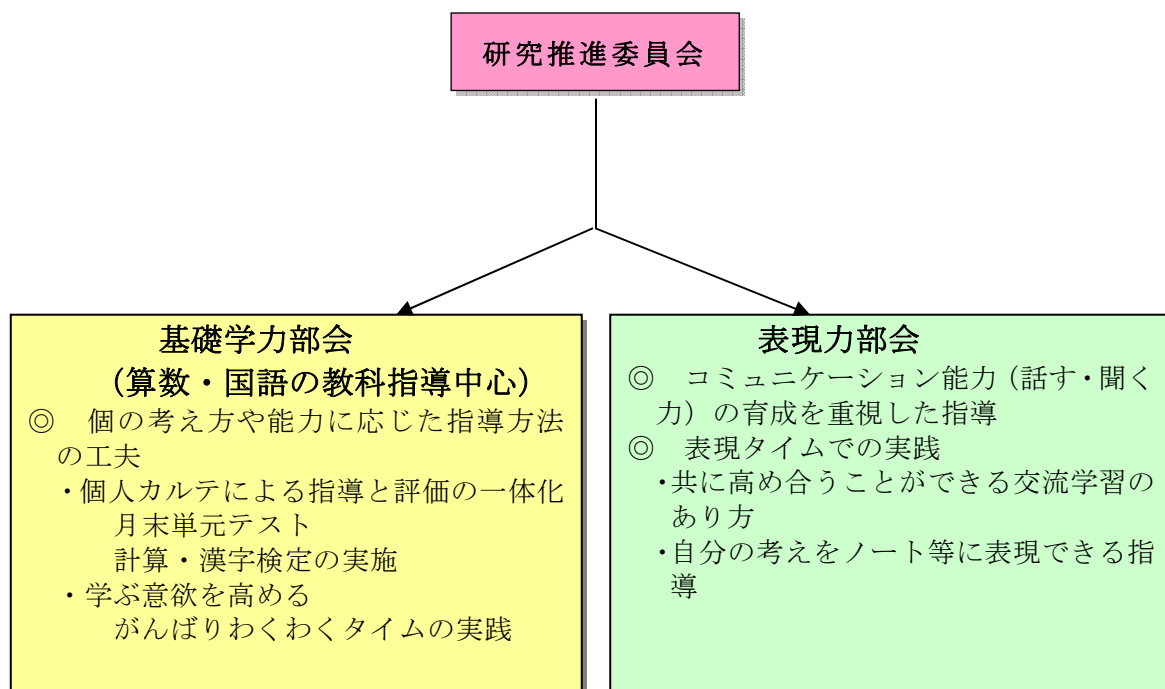
ア 実技研修の実施

- 全員の教員がコンピュータを活用した授業が行えるよう操作・指導の研修の場を設ける。
- 各自の指導技術の向上をめざして体育，家庭科，書写等の実技研修を行う。
- 児童理解のために，教育相談（生徒指導）や特別支援教育等の研修を行う。
- A L Tを活用した英語活動の充実

イ 人権・同和教育研修

- 人権・同和教育計画に基づき，人権・同和教育主任を中心に行う。
- 小中を含めた塩江ブロック合同校内研修会実施による人権・同和教育の充実

③ 研究組織



④ 評価方法

[重点課題]

ア コミュニケーション能力の育成（話す・聞く・交流する力）

イ 基礎的・基本的な知識・技能の習得

[評価方法]

アについて

- ・児童，教員，保護者へのアンケート，聞き取り調査
- ・様々な生活・学習場面での児童の実態観察
- ・児童作成の表現物等の内容
- ・特別活動等での発表の仕方等
- ・国語科での「聞く・話す」領域での児童の力の伸び

イについて

- ・単元末テストの伸び
- ・漢字，計算大会での取り組み状況
- ・児童へのアンケート調査
- ・複数教員から見た研究授業での児童の観察

[評価に対する取り組み]

	コミュニケーション能力の育成	基礎的・基本的な知識・技能の習得
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への聞き取り（各行事ごと） ・全校スピーチによる児童相互評価や教員による評価（月1回） ・音読大会，俳句などによる表現活動での児童の教員からの見取り ・国語科，算数科での研究授業での児童の表現活動での実態観察と校長・教頭の指導 ・委員会活動や朝の活動での児童の発表の仕方等での教員の評価 ・児童対象アンケート実施（9月） ・学習状況調査（国語科での表現領域）による分析と評価（5月） ・外部評価（随時）学習参観の活用（関係諸機関・保護者・学校評議員等） ・国語科での個々の「話す・聞く」力の分析（10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童対象アンケート実施（7月） ・学習状況調査による分析と評価（5月） ・計算大会結果の分析（7月） ・漢字検定の分析（7月） ・がんばりわくわくタイムでの児童の実態（アンケート実施） ・毎月の自作単元末テストでの評価 ・授業研究（5年，6年，2年）での複数教員からの評価と校長・教頭からの評価 ・外部評価（随時） （関係諸機関・保護者・学校評議員等）
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への聞き取り（各行事ごと） ・全校スピーチによる児童相互評価や教員による評価（月1回） ・音読大会，俳句などによる表現活動での児童の教員からの見取り ・国語科，算数科での研究授業での児童の表現活動での実態観察と校長・教頭の指導 ・委員会活動や朝の活動での児童の発表の仕方等での教員の評価 ・児童対象アンケート実施（3月） ・外部評価（随時）学習参観の活用（関係諸機関・保護者・学校評議員等） ・国語科での個々の「話す・聞く」力の分析（3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童対象アンケート実施（12月） ・計算大会結果の分析（12，3月） ・漢字検定の分析（12，3月） ・がんばりわくわくタイムでの児童の実態（アンケート実施） ・毎月の自作単元末テストでの評価 ・授業研究（1年，3年，4年）での複数教員からの評価と校長・教頭からの評価 ・保護者へのアンケートの実施（2月） （学校評価と兼ねて） ・教員対象アンケート（2月） （学校評価と兼ねて） ・外部評価（随時） （関係諸機関・保護者・学校評議員等）

4 研究構想図

